



ふくおか[Good]農業人100

主な農産物／なす(夏秋、冬春)、茶、米

吉田 巧治さん (27歳) (営農地／八女市黒木町)

東南アジアの農業に刺激を受けて就農

《就農のきっかけ》

世界のいろいろな農業をみて

高校卒業後、東京の会社へ就職。「どちらかといえば、農業を仕事にすることは全く考えていなかった。」と語る吉田さん。

25歳の時にワーキングホリデーを利用して、オーストラリアで3ヶ月間の農業を体験、また観光で、カンボジアなど東南アジアの農業を見ているうちに農業への興味がわき、実家で農業を継ぐことを決められたそうです。

《これまでの過程》

仕事を任せられることでモチベーションがアップ

3年前に就農し、親とともに施設なす及び茶の栽培を行っています。栽培に関する技術は、積極的に現地講習会に参加し習得するように心がけているそうです。「やっぱり自分の頭で考えそれを実行し、その結果を受けて、次に生かしていかないと、なかなか作業を覚えませんね。」と語る吉田さん。今年から、施設なすの一部について、栽培管理全般を任せられるようになったそうです。

地域では、消防団や青年部に参加しています。また、青年部のつながりから声をかけてもらい、2年前から黒木町4Hクラブ※に加入、この4Hクラブでは、今年は会長として会のとりまとめなど積極的に活動されています。「これから、いろいろな行事に積極的に参加して、クラブ員のつながりをより深めたいですね。」と話す目が輝いていました。

《これからの展望》

面積の増加に負けないように収量増へ

「農業は、栽培している作物の作業が重なる時期は、忙しくなります。特に私の場合、5月はお茶の収穫、冬春なすの収穫・管理



プロフィール

- 家族構成／父、母、本人、弟2人
- 前職／会社員
- 営農年数／約3年
- 耕作(経営)面積／なす(33a)、茶(40a)、米(0.3ha)
- 販路／JA共販

及び夏秋なすの初期管理などが重なり、非常に忙しい状態です。今年から栽培面積を15a増やしたため、さらに忙しくなることが見込まれます。農作物は、手入れが不十分であると、収穫量は減り、反対に十分に手を入れてやると、収穫量は増えます。作業の効率を考えながら、家族で協力して手入れを十分行い、面積が増加した分はそのまま収穫量の増加につながるように、管理していきたい。」また、「一部の冬春なす施設管理作業を任せられたことから、これまで以上になすの状態を見ながら、水を加減したり、肥料をやったりしていきたい。」と話してくれました。

今年には県で育成したなす新品種「省太」の栽培にも取り組まれます。「この品種は、なす栽培で一番時間のかかる受粉作業をしなくて良い面はあるが、特性なども合わせて確認していきたい。今年は、自分の意志でいろいろな取り組みを行うため、忙しくなると思うが、とても楽しみ。」と笑顔で話してくれました。

※4Hクラブ・・・農村の青少年が地域社会において交流と親睦をはかりながら、農業の生産技術や経営を学ぶとともにひろく生活上の課題を解決する力を養うことを目的としてつくられた学習グループである。4Hとは、head(頭)、hand(手)、heart(心)、health(健康)の頭文字をとったもので、活動の目標を象徴している。



Good 成功のためのポイント

何でも自分でやってみる。親に言われるままではなく、自分でやってその結果を次に生かす。